造影 CT 検査説明書

今回、かかりつけ医の先生からのご紹介で CT 検査を行います。CT 検査にはヨード造影剤を用いる検査とヨード造影剤を用いない検査があります。
病状や検査部位により、造影剤を用いることで、より精度の高い診断が可能となります。その為、かかりつけの先生からの紹介状をもとに、当院画像専門医が造影検査の必要性を判断致します。
ヨード系造影剤は安全な薬剤ですが、まれに副作用が起こることがあります。副作用は次のようなものです。

① 軽い副作用：吐き気・動悸・頭痛・かゆみ・発疹などで基本的に治療を要しません。このような副作用の発生する確率は、約 100 人に 5 人以下、つまり 5%以下です。
② 重い副作用：呼吸困難・意識障害・血圧低下などです。このような副作用は通常治療が必要で後遺症が残る可能性があります。このため入院や手術が必要となることがあります。病状・体質により約 10～20 万人につき 1 人の割合（0.0005～0.001%）で死亡することがあります。このように重篤な副作用の発生する確率は非常に稀といえる数字ではありますが、決して 100%安全な検査でないことをご了承ください。

特にアレルギー体質や喘息の既往のある方はこれらの副作用の発生する確率が高くなります。造影剤は腎臓から排泄されるため、腎機能の悪い方ではさらに身体に負担をかけることがありますので、造影ができない場合があります。

検査室において造影剤を注入するときには

① 注入直後、体が熱く感じることがありますが、直接刺激のため心配ありません。
② 勢いよく造影剤を注入するために、血管外に造影剤が漏れることがあります。この場合には注射部位が腫れて痛みを伴うことがあります。基本的に時間が経てば吸収されるので心配ありません。非常に稀ですが、漏れた量が多い場合には別の処置が必要となることがあります。

当院では万が一の副作用に対して万全の体制を整えて検査を行っています。検査中異常だと感じたら、ためらわず、すぐにお知らせください。非常に稀ですが、重い副作用が出現した場合、入院処置が必要となることがあります。より安全な検査を行う為、来院時に問診票などのご記入をお願いしております。その際、ご質問などございましたら何なりとお申し出下さい。（問診の内容により副作用のリスクが高い場合は造影剤を使用しないことがあります。）

独立行政法人国立病院機構
相模原病院
放射線科